

1. 申請者情報

都道府県名	愛知県	市区町村等名	豊田市	地方公共団体コード	23211
-------	-----	--------	-----	-----------	-------

継続・変更	継続
事業開始年度	2025年度

2. 交付対象事業の名称等

単独／広域	交付対象事業の名称					
単独	SENTANエコシステム構築事業					
主となる事業分野 (入力必須)	事業分野 (大項目)	強い経済	事業分野 (詳細)	ITを活用した中堅・中小企業の生産性向上、新規事業化、対日投資促進等のローカルイノベーション分野		事業分野 ○
関連する事業分野① (任意)	事業分野 (大項目)		事業分野 (詳細)			
関連する事業分野② (任意)	事業分野 (大項目)		事業分野 (詳細)			
ソフト事業実施期間	2025	年	4	月	1	日 から 2028
拠点整備事業実施期間		年		月		日 から
インフラ整備事業実施期間		年		月		日 から

入力必須
(実施事業のみ)

No.	都道府県名	市区町村等名	地方公共団体 コード	【ソフト事業】 対象事業経費	【ソフト事業】 申請額(左記の1/2)	【拠点整備事業】 対象事業経費	【拠点整備事業】 申請額(左記の1/2)	【インフラ整備事業】 対象事業経費	【インフラ整備事業】 申請額
1	愛知県	豊田市	23211	147,261千円	73,630千円				
計				147,261千円	73,630千円	0千円	0千円	0千円	0千円

3. 交付対象事業の背景・概要

A. 地方創生として目指す将来像(交付対象事業の背景) 【背景】 ・豊田市の第9次豊田市総合計画は、2050年を展望した普遍的なまちづくりの方向性を示す「ミライ構想」とミライ構想を実現させるため、2025年4月からの5年間で特に注力する取組の方向性を示す「ミライ実現戦略2030」によって構成されている。ミライ実現戦略2030では、産業分野において「産業中枢都市として深化し続ける」を取組目標として掲げ、必要な取組として、(1)新たな産業が創出されている(2)市内事業者が社会の変化に対応していることが必要と整理している。それぞれの取組方針として、(1)成長産業の誘致、新事業展開の促進、起業創業支援等、事業者のチャレンジを促進するとともに、(2)DX化、事業転換、販路拡大、人材育成等、経営力の強化による持続可能性の向上に向けた取組を実施し、「産業都市としての深化」を目指すとしている。 ・その上で具体的なデータを確認すると、本市の市内総生産における製造業の割合は72.4%を占め、国内総生産に占める製造業の割合19.7%に比べて著しく高い比率となっている(経済センサス活動調査(2021年))。併せて、本市の製造業における自動車関連産業の占める割合は、事業数で全体の23.0%、従業員数で77.3%、製造品出荷額等で93.3%と極めて高くなっている(経済構造実態調査製造業事業所調査(2023年))。また、本市の自動車関連産業の工場の約8割が従業員数300人未満の中小規模の工場であることから、本市基幹産業の自動車関連産業は、完成車メーカーを頂点とした、グループ企業、様々な規模のサプライヤーからなる裾野の広い垂直統合型のピラミッド構造で成立している。 ・本市の製造品出荷額は2017年の14兆5900億円に対し、2023年は16兆8100億円と増加している。(豊田市の工業、製造業事業所調査(2017～2023)) ・製造品出荷額や従業員数を見ると、順調に産業が成長していると見ることができ一方で、中国市場ならびに欧州市場を中心に新エネルギー車(NEV)であるバッテリー式電気自動車(BEV)、プラグインハイブリッド車(PHEV)の普及が進んでいる。中国市場では、2020年から2023年の3年間でBEV、PHEVの年間販売台数がそれぞれ約6倍(92万台→540万台)、約12倍(22万台→270万台)、欧州市場でも同期間でBEV、PHEVの年間販売台数がそれぞれ約3倍(75万台→220万台)、1.7倍(63万台→110万台)となっている(IEA「Global EV Outlook 2024」)。 ・今後、BEVの普及が進むことで、2035年には世界市場において、BEVの年間販売台数が、5,100万台、PHEVの年間販売台数が550万台になると見込まれている。しかし、2024年になってから、欧州市場の新車販売台数におけるBEVの割合(シェア)は、前年に比べて減少傾向となっている。2024年8月におけるBEVのシェアは前年の21.0%から14.4%へ減少し、PHEVも7.4%から7.1%と減少している。一方、ハイブリッド車(HEV)のシェアは24.0%から31.3%と増加しており、市場形成の初期段階におけるBEVの需要が一巡し、本格的な普及の前の踊り場を迎えていると考えられ、その動向を注視していくことが求められる。 ・先行きが不透明かつ変化の激しい現代の状況において、本市産業の持続的な発展を実現するには、総合計画に記載のとおり、市内事業者の競争力強化、新事業展開などを促すための新規事業開発や、販路拡大などに向けた支援、スタートアップ等と市内企業との連携・協業によるオープンイノベーションの支援や本市産業を牽引する新たなプレイヤー(新たな価値の創造や起業を志す人々)を育成・支援していくこと等、幅広い支援が求められる。 【市組織・施設の概要】 「ものづくり創造拠点SENTAN」(SENTAN・・・閃殺、千鍛、先端の3つの意味からとった愛称) 激しい環境変化の渦中にある市内ものづくり企業の持続的発展を支援することを目的に、主に、ものづくり中小企業や、創業を志すものづくり団体に対して、「新たな事業展開」、「イノベーション創出」、「ものづくり人材育成」を支援する施設として市直営で平成29年9月に設立。豊田市長菅市民 豊田英二様のご遺族による寄附金を活用しており、寄附者の「ものづくり人材の育成に役立てて欲しい」という意向も反映している。 ・SENTANIには3つの組織が入居している。 ①「とよたイノベーションセンター」 - 豊田商工会議所・豊田高専・豊田市の3者連携による、ものづくり企業の技術・経営課題の解決等を支援する機関。中小企業診断士であるコーディネーターが課題を把握し、幅広いネットワークにより解決策を提供している。また、中小企業の新事業展開に向けた各種セミナーも実施する。 ②「豊田市産業部 次世代産業課」 - 市の中小企業支援担当部署。中小企業の新事業展開・販路開拓、人材育成支援事業等を実施する。 ③「豊田市魅力創造部 ものづくりサポートセンター」 - 小中学校の授業での「ものづくり教育プログラム」の実施や、中・高生を対象とした科学・ものづくり講座の実施など、子どもたちのものづくり学習を支援する。 ・3つの組織の連携と、企業に新たな価値を生み出し、アイデアを形にできるSENTANという場の活用により、ものづくり企業や団体の新たな事業展開やイノベーションの創出支援、子どもから大人まで切れ目のないものづくり人材育成を効果的かつ効率的に行っている。 【目指す将来像】 本事業により、ものづくり創造拠点SENTANをHUBとして、新たな価値の創造や起業を志す人々が共に学び、交流・連携することで、イノベーションが創出され続ける仕組み(SENTANエコシステム)を構築し、基幹産業としての自動車産業の発展と合わせ、市内ものづくり企業の技術力を活かした新事業展開やオープンイノベーションによって成長し、本市産業の持続的発展を目指す。
B. 地方創生の実現における構造的な課題 背景でも記載したように、豊田市は基幹産業である自動車製造業を中心とした工業都市である。本市の事業所の開業率、廃業率は全国他都市、県内他都市と比較していずれも低く、成熟した産業構造であるといえる一方で、垂直統合型の産業構造によりQCDD(品質、コスト、納期)を追求してきた経緯から、新事業や起業家が生まれ続ける土壌ではない。目指す将来像を見据えた際に、以下の課題を解決する必要がある。 【課題①】新規事業創出に取り組む企業数の増加 新たな事業展開に取り組んでいるものづくり中小企業の割合は2023年に30.2%、2024年に32.8%であった。(ものづくり中小企業基礎調査(市独自アンケート調査))割合は微増しているものの、伸び悩みを見せている。 2023年から取組を実施している新規事業創出支援事業「SPARK」では2023年に8社、2024年に4社を選定し、自社開発による新規事業創出の伴走支援を実施している。2024年の伴走支援企業選定に際し、事業のキックオフセミナー等に経営層が参加した企業も多く、新規事業創出に取り組む関心の高さが伺える一方、事業応募に至らなかった企業へのヒアリングでは、「新規事業への経営層の理解が得られない」、「事業参加の社内稟議を通すためのハードルが高い」といった、担当者レベルからのボトムアップによる新規事業創出の難しさを訴える意見もあり、企業ごとの新規事業創出への温度差が大きくなっている。 【課題②】産業の新陳代謝の低下 事業所の開業率、廃業率(※全産業 経済センサス活動調査(2021年)) 【豊田市】 開業率:3.7% 廃業率:4.9% (※製造業 開業率:2.1% 廃業率:3.5%) 【岡崎市】 開業率:3.8% 廃業率:5.0% 【名古屋市】 開業率:5.5% 廃業率:6.0% 【東京特別区】開業率:6.8% 廃業率:6.7% 全業種で比較した際、開業率、廃業率ともに県内他都市等と比較して低くなっている。特に開業率に関して、製造業を中心とした産業構造も要因の一つである一方で、スタートアップやベンチャーといった新興企業が創出される土壌が整備されていないことも要因となっている。新しいイノベーションの創出には、起業と廃業による産業の新陳代謝が必要となるが、本市ではそういった新陳代謝が起こりにくい産業構造になっていると言える。愛知県では2018年に「あいちスタートアップ戦略」を発表するとともに、2024年10月には「STATION Ai」を開業するなど、スタートアップ創出・オープンイノベーションの推進に向けた動きが加速している。こうした潮流において、本市の経済をより活性化していくためには、インバリューのあるスタートアップの創出や第二創業、企業内起業といった動きを活発化する取組が求められる。 【課題③】他社との連携、オープンイノベーションへの障壁 市内製造業の多くはサプライヤーとしてピラミッドを形成しており、販路を開拓するような営業活動に積極的でない場合が多い。そのため、他社との連携やコミュニティを形成して情報交換をするといった文化に乏しい。 2024年にSENTANを活用する企業23社に対し、オープンイノベーションにかかる小規模なアンケートを実施したところ、「他企業との協業を実施したことはあるか」という問に対し、5社が「実施したことがある」と回答。さらにそのうちスタートアップ・ベンチャーとの協業は0社であった。サンプル数が少ないため統計的なデータではないが、行政の事業に積極的に参加し、自社事業推進に精力的な企業からの回答であり、オープンイノベーションへのハードルの高さを表している。一方で、「スタートアップ・ベンチャー企業という言葉について知っているか」という問に対し、18社が知っていると回答した。また、「スタートアップ・ベンチャー企
C. 交付対象事業の概要 (交付対象事業がどのように構造的な課題の解決に寄与するのかが分かるように記載すること。)

産業の持続的発展のため、新たな価値の創造や起業を志す人々を「新たなプレイヤー」と設定。○オープンイノベーション・新規事業創出、○新たなプレイヤーの創出、○コミュニティ形成と機運醸成 の3つの視点から支援を実施する。また、以下の取組促進のためSTATION Aiと連携を深め、STATION Ai事務局及びパートナー企業との連携により、積極的な事業促進を図る。

○オープンイノベーション・新規事業創出支援（課題①）

・新規事業創出支援事業「SPARK」

新たな収益の構築を目指す市内企業に向けて、社内新規事業開発やオープンイノベーションによる新規事業開発を支援する。新規事業開発に向けたキックオフセミナー、新規事業の作り方を学ぶ事業創出アカデミーを経て、実際に新規事業に取り組む企業を選定し、伴走支援を実施。本事業をきっかけとした事業化を目指す。加えて、経営層向けセミナーを実施することで、課題であった企業の新規事業開発に向けた体制構築を支援し、積極的な参加を促す。2024年度までは社内新規事業開発支援のみであったが、オープンイノベーションコースを新たに新設。スタートアップ等との連携により新たなイノベーションの創出を目指す。

・スタートアップ支援コーディネーターによる相談支援及びマッチング実施

豊田市、豊田高等専門学校、豊田商工会議所の3社連携で運営する「とよたイノベーションセンター」において、「スタートアップ支援コーディネーター」を設置。中小製造業での勤務経験や、自身でのスタートアップ起業、メンター経験のある人材を採用予定。STATION Ai及び近隣のインキュベーション施設等とSENTANを繋ぎ、相談支援、企業間のマッチングを実施する。

・ものづくりイノベーション創出事業補助金

市内スタートアップによるものづくり分野における新規事業創出、市内企業とスタートアップによるオープンイノベーションの手法を活用した新規事業創出にかかる費用の一部を補助することに加えて、補助事業となるスタートアップ事業の実装に向けた支援により、本市から社会に新たな価値を提供する事業（イノベーション創出事業）を生み出し、新たな産業の創出を図る。

○新たなプレイヤーの創出（課題②）

・アクセラレータープログラムの実施

スタートアップ等の新たなプレイヤーの事業計画策定を支援するプログラムを提供し、VC等と資金調達のディスカッションができる状態を目標として、セミナーやワークショップ、個別メンタリングによる伴走支援を実施する。起業を目指す個人や団体、学生をターゲットとし、特に市内工業大学、高等専門学校と連携し、新たなプレイヤーとして活躍する人材の掘り起こしを実施することで、起業を目指す人材の創出を目指す。

・スタートアップ支援コーディネーターによる相談支援

先述したスタートアップ支援コーディネーターによる相談支援を実施し、アイデアの壁打ちや情報交換によるビジネスモデルのブラッシュアップを図る。相談支援の中で他企業との連携や市事業への流入を促進し、事業全体の活性化を目指す。

・ビジネスコンテスト

スタートアップ等の新たなプレイヤーのビジネスモデルを発表し、優秀をつけるとともに、優勝者等にはインセンティブを与え、事業の飛躍及び販路の拡大を目指す。

○コミュニティ形成支援と機運醸成（課題③）

・（仮称）SENTAN定期イベント実施事業

機運を高めるセミナーや、アイデアを披露し、ブラッシュアップするピッチイベントなど、SENTANがHUBとなり、新たなプレイヤーが共に学び、交流・連携する場と認識される取組を継続的に実施することで、イノベーションが創出され続ける仕組み（SENTANエコシステム）の構築を目指す。

○その他補助事業以外の取組

・豊田市つながる社会実証推進協議会との連携

スタートアップは資金だけでなく、実証できる環境、フィールドを求めるケースも増えており、先進技術を持つ企業やスタートアップ等との市内での実証実施をきっかけとしてSENTANエコシステムへの流入を促進する。

・とよたイノベーションセンター 中小企業支援コーディネーターとの連携

とよたイノベーションセンターで委託する中小企業支援コーディネーターは中小企業診断士の資格を保有し、製造業を中心とした市内相談支援先企業の情報を詳細に把握している。毎月実施するコーディネーター会議を中心にスタートアップ支援コーディネーターと連携することで双方のニーズとシーズを共有し、企業間連携に繋げる。

・ものづくりサポートセンター事業からの新たなプレイヤーの流入

中、高生を中心としたアントレプレナーシップ事業を実施しており、意欲の高い事業参加者をアクセラレータープログラム等新たなプレイヤー創出を目指す事業に繋げ、学生から社会人まで、シームレスな支援を実施する。

4. 優先採択テーマへの該当

優先採択テーマへの申請の有無	-
----------------	---

5. 他の政策・施策に基づく取組と連携する事業における弾力措置の対象となる事業

連携する取組			所管省庁への 事前相談	
主務大臣による認定を受けた政策・施策間連携に関する事業計画の名称				
地域未来投資促進法の「基本計画」に明記される事業のうち、個別事業者への支援が含まれる場合のみ記載	基本計画に適合するとして承認された地域経済牽引事業計画の名称			
	主務大臣の承認を得られた連携支援計画の名称			
地域未来投資促進法の「基本計画」に明記される事業のうち、設備投資等の支援を行う場合のみ経済波及効果を記載				

6. 他の国庫補助金等の対象事業の除外

(1)	ソフト事業及び拠点整備事業において、他の国庫補助金等の対象となる部分や特別交付税等の他の財政上の支援を受けている経費を除外しているか。	○
(2)	ソフト事業及び拠点整備事業において、従前から一般財源により実施されている事業経費や経常的な経費等の財源振替、地方公共団体が実施する福祉事業等、本来一般財源で措置すべき経費を除外しているか。	○
(3)	ソフト事業及び拠点整備事業において、提案、企画・立案に関するコンサルティング経費を除外しているか。	○

7. 交付対象事業の重要業績評価指標 (KPI)

KPI① (事業・施策の全体効果を 示す必須KPIを設定するこ と)		市内製造品出荷額等に対する付加価値率										単位	%
KPI②		新たな事業展開に取り組んでいるものづくり中小企業の割合										単位	%
KPI③		イノベーション創出を目指す企業、団体等の数										単位	者
KPI④												単位	
KPI⑤												単位	
KPI⑥												単位	
設定したKPIが複数年に わたって費用対効果を 計測するのに適してい る理由・計測手法・目標 値の根拠		KPI①は、本市の第9次総合計画の指標を設定。付加価値率は製品の強さのバロメーターであり、付加価値の割合増加に伴い利益が増加している状態となる。新事業展開やオープンイノベーションの促進による市内製造事業者の成長度合い、景気動向を測ることができる。 計測手法：経済構造実態調査、製造業事業所調査 目標値の根拠：第9次総合計画目標値 KPI②は、本市産業施策にかかる計画である「豊田市産業振興プラン2025-2029」の「参考指標」を設定。市独自アンケート調査である「ものづくり中小企業実態調査」を基にしており、毎年度実施し、その年度中に集計を実施するため、鮮度の良いデータを得ることができ、新規事業創出に取り組む事業者を把握することができる。 計測手法：ものづくり中小企業実態調査 目標値の根拠：豊田市産業振興プラン目標値 KPI③については、アクセラレーションプログラム参加者及びSENTAN登録者数の合計を「イノベーション創出を目指す企業、団体等の数」としてアウトプット目標を設定。コミュニティの形成や新たなプレイヤーの創出に向けた動きを把握することができる。 計測手法：各事業実績の集計 目標値の根拠：2023年度末SENTAN登録者数の実績値と増加数（10件／年程度）及びアクセラレータープログラムへの参加者数（5社／年）を加味し、25者／年の増加を目標として目標値を設定。											
		事業開始前時点	2025年度増加分	2026年度増加分	2027年度増加分	2028年度増加分	2029年度増加分	2030年度増加分	2031年度増加分	2032年度増加分	2033年度増加分	2034年度増加分	KPI増加分の累計
KPI①	計画	21.50	0.10	0.10	0.10							0.30	
	実績 ※見込みは下線		21.60	21.70	21.80							65.10	
KPI②	計画	32.80	0.20	2.00	2.00							4.20	
	実績 ※見込みは下線		1.80	2.00	2.00							5.80	
KPI③	計画	105.00	15.00	20.00	20.00							55.00	
	実績 ※見込みは下線		25.00	20.00	20.00							65.00	
KPI④	計画											0.00	
	実績 ※見込みは下線											0.00	
KPI⑤	計画											0.00	
	実績 ※見込みは下線											0.00	
KPI⑥	計画											0.00	
	実績 ※見込みは下線											0.00	

KPIの実績等、事業の進捗や効果検証を踏まえた事業の見直し内容及び、考え方(事業・経費に係る地域の多様な主体の参画による評価の内容を踏まえた事業見直しについて記載すること。)

※ソフト事業の計画期間を延長する場合は、事業期間の延長について、地域の多様な主体の参画による評価の内容を踏まえたものであり、当該評価の内容を踏まえた事業の見直しが図られていることを記載すること。また、当初の事業計画期間のKPIの目標値を1つ以上達成(見込みも可)していることを記載すること。

1年目の事業実施を通じ、市内中小企業へのヒアリング及び 豊田市が入居するSTATION Aiでのスタートアップの動向を調査・検証した。結果を、また、併せて地域の多様な主体である豊田商工会議所、豊田工業高等専門学校、豊田信用金庫には各事業の交流会、報告会等にゲストとして参画いただき、取り組みについて意見交換を行ったところ、以下の課題が浮き彫りとなった。

第一に、新事業展開(KPI②)やイノベーション創出(KPI③)を志す企業の多くが、資金不足に加えて「事業化ノウハウの欠如」という壁に直面している点が挙げられる。補助金による経済的支援のみでは、事業開発が停滞してしまい、最終的な利益創出、すなわち付加価値率(KPI①)の向上まで結びつかないケースが見受けられた。

第二に、オープンイノベーションにおいては、異なる組織間の調整や契約、知財の取り扱いなど、高度な実務判断が求められ、スタートアップのサービスを導入する際のコストを軽減したい企業の意見を聞くことができた。

第三に、ものづくりエントリー層の掘り起こしが不十分であり、中長期的な起業家輩出のサイクルが確立されていないことが判明したため、エントリー層を増やす取組の強化が必要である。

以上のことから、2年目及び3年目の計画で予定していた補助事業について、単なる資金供給に留まらず、事業化を加速させる「伴走支援」をセットで提供することと、施設登録団体を増やし、潜在的なプレイヤー層の裾野を広げることが、KPIの確実な達成に不可欠であると判断した。これに伴い、支援体制の抜本的強化と補助枠の拡充、裾野拡大の事業を行うため、事業費を増額申請するものです。

以下に、事業の見直し内容について記載します。

1. 支援体制の抜本的強化：伴走コンサルティング機能の追加
- 【強化の理由】スタートアップ及び地域企業へのヒアリングにより、「補助金による資金供給のみでは、事業化プロセスの初期段階(市場調査等)で足踏みし、補助事業者に名乗り出ることができない」という課題が明確になった。
- 【具体的な内容】これまでの事務局による進捗管理のみの体制を改め、事業化プロセスの各フェーズ(戦略策定、知財管理、販路開拓)に精通した専門アドバイザーによる「ハンズオン型伴走支援」を標準実装する体制へと強化する。これにより、補助事業申請企業数の確保と採択企業の事業化成功率を底上げし、新事業展開(KPI②)とイノベーション創出(KPI③)を確実に促すとともに、付加価値率(KPI①)の向上確度を高める。
2. 補助枠の拡充：オープンイノベーション(OI)実証枠の創設
- 【拡充の理由】スタートアップとの連携を模索する企業やスタートアップから、「連携に伴う法務・契約コストや、事業化を探索するための実証実験(PoC)の経費負担が大きく、現行の小規模な補助枠では参画のリスクを解消しきれない」とのフィードバックを受けた。
- 【具体的な内容】予定していたスタートアップ支援及びOI事業化枠の補助枠に加え、「OI実証枠」を新設するとともに、補助上限額および補助率を拡充する。具体的には、OI実証枠は随時の書面審査による採択とし、市内企業がスタートアップのサービスを試験導入するハードルを下げることににより、新事業展開(KPI②)やイノベーション創出(KPI③)を推進するとともに、次年度以降のOI事業化枠補助金に申請する効果も期待している。
3. 裾野拡大の事業
- 【実施の理由】ものづくり創造拠点SENTANの活用は一定のスキルを持つ層に留まっている。イノベーション創出(KPI③)を加速させるためには、まずは施設登録団体を増やし、潜在的なプレイヤー層の裾野を広げることが不可欠であると判断した。
- 【具体的な内容】ものづくりに関心があるが技術的・心理的ハードルを感じている「エントリー層」を対象に、数日間の短期体験講座(プロトタイプ体験等)を企画・実施する。これによりSENTAN登録団体・利用者の純増を図る。単なる体験に留めず、施設利用を常態化させることで「ものづくりプレイヤー」を育成し、その中から将来的に新事業展開(KPI②)や起業を志す人材を継続的に輩出すること(KPI③)へつなげたい。
- 以上の見直しは、地域の多様な主体をはじめとする各ステークホルダーからの「より踏み込んだ実務支援が必要」との意見に基づいてのものであり、KPIの達成には「高度な専門支援」「定例化された評価」を要する。

8. 自立性

取組内容

(事業を進めていく中で、事業推進主体が自立していくことにより、将来的に本交付金に頼らずに、事業として継続していくことが可能となる事業であること。

本事業を通じて、行政の事業による新規事業やオープンイノベーション、スタートアップの創出のみならず、SENTANをHUBとして絶えず交流、連携が生まれるエコシステムを形成し、将来的に行政の事業規模、予算規模を縮小しても自発的にイノベーションが創出され続ける環境を整える。

自主財源の種類		自主財源の内容						
【A】	一般財源(市)	本事業実施のための委託費用等						
【B】								
【C】								
【D】								
【E】								
各年度における自主財源見込額		事業開始前 (現時点)	2025年度(1年目)	2026年度(2年目)	2027年度(3年目)	2028年度(4年目)	2029年度(5年目)	2030年度(6年目)
【A】	計画	11,083千円	52,479千円	147,261千円	152,261千円	152,261千円		
	実績 ※見込は下線		52,479千円	147,261千円	152,261千円	152,261千円		
【B】	計画							
	実績 ※見込は下線							
【C】	計画							
	実績 ※見込は下線							
【D】	計画							
	実績 ※見込は下線							
【E】	計画							
	実績 ※見込は下線							
合計	計画	11,083千円	52,479千円	147,261千円	152,261千円	152,261千円	0千円	0千円
	実績 ※見込は下線	0千円	52,479千円	147,261千円	152,261千円	152,261千円	0千円	0千円
交付対象事業経費			52,479千円	147,261千円	152,261千円	0千円	0千円	
うちソフト事業費			52,479千円	147,261千円	152,261千円	0千円	0千円	
うち拠点整備事業費								
総事業費								
自主財源見込額の計画が未達成であった場合、その理由								
未達成の理由を踏まえた見直し内容及び考え方								

地方公共団体名								
愛知県豊田市	分類	産	官	学	金			
	主体名							
		豊田商工会議所	豊田市	豊田工業高等専門学校	豊田信用金庫			
	主な役割、意見及び改善方策への反映	【役割】幅広い会員ネットワークを活かし、市内事業者を中心に会員からの意見集約及び事業周知を実施。 【意見・改善方策】最も現場に近い組織として、事業所ニーズを事業改善に繋げる。	【役割】市事業の実施及び全体調整を実施。 【意見・改善方策】市総合戦略や産業振興プラン等、市施策の方針の反映と、事業実施する中で生まれる方向転換等を柔軟に検討し、目標達成を目指す。	【役割】アントレプレナーシップ、学内マッチ等の実施による新たなプレイヤーの創出と企業との連携。 【意見・改善方策】学生・教育機関の求める産業振興施策についての意見、改善方法の提案。	【役割】顧客である市内事業所に対し、融資、投資といった金銭面での支援及び事業周知の実施。 【意見・改善方策】市内事業所の状況を踏まえた産業振興施策への意見、改善方法の提案。			

地方公共団体名	検証時期			検証方法		外部組織による検証 外部組織の参画者		検証結果の公表方法
愛知県豊田市	毎年度	9	月	SENTANエコシステム構築事業について検討・検証する会議体を構築	豊田商工会議所、豊田市、豊田工業高等専門学校、豊田信用金庫		市HP等で公開予定	

地方公共団体名	地方版総合戦略の計画期間・基本目標																											
	現行の地方版総合戦略								次期地方版総合戦略																			
愛知県豊田市	2025	年	4	月	1	日	から	2030	年	3	月	31	日	まで		年		月		日	から		年		月		日	まで
	基本目標1:しごとづくり																											

地方公共団体名	地域再生計画の名称									
愛知県豊田市	第2期豊田市まち・ひと・しごと創生推進交付金計画									
	地域再生計画の区域	愛知県豊田市の全域								
	計画期間	地域再生計画の認定の日	から	2030	年	3	月	31	日	まで

	2025年度 (1年目)	2026年度 (2年目)	2027年度 (3年目)	2028年度 (4年目)	2029年度 (5年目)	合計
交付対象事業経費【①】	52,479千円	147,261千円	152,261千円	0千円	0千円	352,001千円
交付対象事業における ソフト事業経費【②】	52,479千円	147,261千円	152,261千円	0千円	0千円	352,001千円
交付対象事業における 施設整備・事業設備・備品 経費【③】	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
交付対象事業における施設 整備・事業設備・備品経 費比率【③/①】	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

<2025年度(1年目)>

ソフト事業1年目に実施する全事業の中で、最も早い支出負担行為日(契約日、交付決定日等)

2025

年

4

月

1

日

全事業期間における本年の位置付け		エコシステム構築事業への参加者流入の増加によるコミュニティ形成促進と補助金新設による自立性の強化								
事業開始時期		事業終了時期		予算計上時期①	予算種別①	予算計上時期②	予算種別②	予算計上時期③	予算種別③	
2025 年 4 月		2026 年 3 月		2024 年 10 月	当初	年 月		年 月		
交付対象事業経費		52,479千円								
交付対象事業におけるソフト事業経費						要素事業数		4	計	52,479千円
1	新規事業創出支援事業「SPARK」						関連するKPI		①、③	
	新たな収益の構築を目指す市内企業に向けて、社内新規事業開発やオープンイノベーションによる新規事業開発を支援する。新規事業開発に向けたキックオフセミナー、新規事業の作り方を学ぶ事業創出アカデミーを経て、実際に新規事業に取り組む企業を選定し、伴走支援を実施。									
	委託費 22,479千円									
	事業創出アカデミー＆ワークショップ(1年目)						7,288千円			
	伴走支援の継続(2年目)						2,783千円			
	広報・PR・機運醸成・コミュニティ						2,145千円			
	その他事務費等						660千円			
	《オープンイノベーション》(拡充分)									
	プログラム全体の企画・運営						253千円			
	ホスト企業の募集						2,052千円			
2	スタートアップ支援コーディネーターによる相談支援及びマッチング実施						関連するKPI		①、②	
	「とよたイノベーションセンター」において、「スタートアップ支援コーディネーター」を設置。中小製造業での勤務経験や、自身でのスタートアップ起業、メンター経験もある人材を採用予定。STATION Aiに在席し、STATION Ai及び近隣のインキュベーション施設等とSENTANを繋ぎ、スタートアップ等の相談支援、企業間のマッチングを実施する。									
	コーディネーター委託費 5,000千円									
	アクセラレータープログラム						関連するKPI		①、②	
	スタートアップ等の新たなプレイヤーの事業計画策定を支援するプログラムを提供し、VC等と資金調達とのディスカッションができる状態を目標として、セミナーやワークショップ、個別メンタリングによる伴走支援を実施する。									
	委託費 10,000千円									
	アクセラレータープログラムの企画・運営						5,280千円			
	成果発表会の企画・運営						1,595千円			
	講師謝金、広告宣伝費 等						2,200千円			
	その他経費						925千円			

4	(仮称)SENTAN定期イベント実施事業	関連するKPI	②	15,000千円	
	機運を高めるセミナーや、アイデアをブラッシュアップするピッチイベントなど、SENTANがHUBとなり、新たなプレイヤーが共に学び、交流・連携する場と認識される取組を継続的に実施する				
	委託費 15,000千円 月1イベント開催(セミナー、ワークショップ、成果発表会、交流会等)				
	1,150千円×12 13,800千円				
交付対象事業における施設整備・事業設備・備品経費		要素事業数		計	0千円
経費内訳変更の理由(事業の見直しを踏まえて、変更する理由を具体的に記載)					

<2026年度(2年目)>				※2年目以降の交付額が担保されるわけではありません。				事業延長期間							
全事業期間における本年の位置付け		エコシステム構築事業への参加者流入の増加によるコミュニティ形成促進と補助金新設による自立性の強化													
事業開始時期		事業終了時期		予算計上時期①		予算種別①		予算計上時期②		予算種別②		予算計上時期③		予算種別③	
2026 年 4 月		2027 年 3 月		2025 年 10 月		当初		年 月				年 月			
交付対象事業経費												147,261千円			
交付対象事業におけるソフト事業経費								要素事業数		5		計		147,261千円	
1	新規事業創出支援事業「SPARK」							関連するKPI		①		24,761千円			
	新たな収益の構築を目指す市内企業に向けて、社内新規事業開発やオープンイノベーションによる新規事業開発を支援する。新規事業開発に向けたキックオフセミナー、新規事業の作り方を学ぶ事業創出アカデミーを経て、実際に新規事業に取り組む企業を選定し、伴走支援を実施。														
	委託費 24,761千円														
	全体企画・運営 1,485千円 参加者募集支援 1,925千円 (キックオフイベント企画運営、とよたビジネスフェア出展、企業個別訪問等) 新規事業開発基礎研修 2,337千円 (全4回セミナー企画運営、講師謝礼等) オープンイノベーション機運醸成支援 578千円 (オープンイノベーションセミナー企画運営、講師謝礼等) ワークショップ開催 1,155千円 (技術起点の事業アイデア創出ワークショップ(2回)企画運営、講師謝礼等) 伴走支援プログラム 11,000千円 (参加企業選定支援、伴走型メンタリング(10社想定)、マッチング支援、合同ワークショップ、中間発表会企画運営等)[卒業生向け支援 3,300千円 (メンタリング(50回程度)、コミュニティイベント企画運営等) 成果報告 825千円 (成果報告会企画運営、ゲスト謝金等) 新規事業開発機運醸成支援 825千円 (経営者向けセミナー企画運営、広報用コンテンツ作成) 広報 1,331千円 (WEBサイト保守・運営、SNS広告、チラシ作成等)														
2	スタートアップ支援コーディネーターによる相談支援及びマッチング実施							関連するKPI		①、②		5,000千円			
	「とよたイノベーションセンター」において、「スタートアップ支援コーディネーター」を設置。中小製造業での勤務経験や、自身でのスタートアップ起業、メンター経験もある人材を採用予定。STATION Aiに在席し、STATION Ai及び近隣のインキュベーション施設等とSENTANを繋ぎ、スタートアップ等の相談支援、企業間のマッチングを実施する。														
	コーディネーター委託費 5,000千円														
3	アクセラレータープログラム「TAKE OFF」							関連するKPI		②		10,000千円			
	スタートアップ等の新たなプレイヤーの事業計画策定を支援するプログラムを提供し、VC等と資金調達のディスカッションができる状態を目標として、セミナーやワークショップ、個別メンタリングによる伴走支援を実施する。														
	委託費 10,000千円 アクセラレータープログラムの企画・運営 5,280千円 成果発表会の企画・運営 1,595千円 講師謝金、広告宣伝費 等 2,200千円 その他経費 925千円														

4	SENTAN活性化事業 ①SENTAN共創ラボ「Edge」(当初申請事業名:SENTAN定期イベント実施事業) 機運を高めるセミナーや、アイデアをブラッシュアップするピッチイベントなど、SENTANがHUBとなり、新たなプレイヤーが共に学び、交流・連携する場と認識される取組を継続的に実施する。参加者にVCや金融機関を積極的に呼び込み、資金調達等への支援を促進すると共に、コミュニティマネージャーとしての活動を強化する。 《委託費 16,200千円》 プログラム企画・運営業務費 10,000千円(イベント12回開催) (企画運営経費、セミナー講師謝礼等) コミュニティマネージャー活動費 300千円/月×12 3,600千円 情報発信費用 2,600千円 (SNS広告費用、HP作成・保守費用、チラシ作成費用等) ②メーカーズラボ(新規) ものづくりに関心のある新たなプレイヤーに対し、SENTANの設備を活用してアイデアをカタチにするものづくり体験等を提供することで、イノベーション創出の核となる人材を育成・発掘し、SENTAN登録団体を増やし、SENTANエコシステムを活性化することで、本市産業の持続的発展につなげる。 《委託費 3,300千円》 経費 プログラム企画・運営業務費 2,500千円 (キックオフイベント、ミートアップ(2回)、報告会等の実施等) 講師謝礼等 500千円 情報発信費用 300千円 (SNS広告費用、チラシ作成費用等)	関連するKPI	②、③	19,500千円
	ものづくりイノベーション創出補助金(当初申請事業名:スタートアップ・オープンイノベーション支援補助金) ①ものづくりイノベーション創出補助金 自動車産業が大変革期を迎える中、市内スタートアップによるものづくり分野における新規事業創出、市内企業とスタートアップによるオープンイノベーションの手法を活用した新規事業創出を支援することで、本市から社会に新たな価値を提供する事業(=イノベーション創出事業)を生み出し、新たな産業の創出を図る。 《補助事業費 68,000千円》 補助対象経費 A スタートアップ枠 / 専門家指導等謝礼金・外部委託費・原材料費等 B オープンイノベーション 実証枠 / 旅費・会議費・通信費・外部委託費等 C オープンイノベーション 事業化枠 / 旅費・会議費・通信費・外部委託費・製品見本等の制作費・販売促進費等 補助対象者 A スタートアップ枠 / 市内スタートアップ B オープンイノベーション 実証枠 / 市内企業者 C オープンイノベーション 事業化枠 / 市内企業者 補助率 A スタートアップ枠 / 補助対象経費の2/3 B オープンイノベーション 実証枠 / 補助対象経費の4/5 C オープンイノベーション 事業化枠 / 補助対象経費の2/3 補助上限 A スタートアップ枠 / 1,000万円 B オープンイノベーション 実証枠 / 200万円 C オープンイノベーション 事業化枠 / 1,000万円 補助件数 A スタートアップ枠 / 3件/年 B オープンイノベーション 実証枠 / 4件/年 C オープンイノベーション 事業化枠 / 3件/年 ②ものづくりイノベーション創造補助金運営支援業務委託 単なる補助金制度の運営ではなく、補助金申請事業者の申請内容、人的資質の審査を行い、適正・実現可能性を精査し、採択後の補助対象事業の達成確度を高めるための伴走支援を提供するとともに、補助金以外の資金調達支援、マーケット展開支援、他制度の紹介、ネットワーク構築支援なども含め、事業の実装・継続性確保を支援することで、事業の成功を目的とした支援インフラを構築し、地域産業・技術基盤強化、雇用創出、地域経済波及を目指す。 《委託事業費 20,000千円》 経費 事業企画・事務局運営 10,000千円 情報発信費 1,500千円 (HP作成・保守、SNS広告等) 審査会開催 500千円 (審査員謝礼等) メンタリング費 8,000千円 (VC、メンターによるメンタリング(10社×3回×8か月間 240回程度想定))	関連するKPI	①	88,000千円
5	交付対象事業における施設整備・事業設備・備品経費	要素事業数	計	0千円

経費内訳変更の理由(事業の見直しを踏まえて、変更する理由を具体的に記載)

【増額に至った経緯】

R7年2月から豊田市としてSTATION Aiに入居し、豊田市で起業や先進実証に挑戦するスタートアップ、企業の相談窓口として「はじめるとよた」を開設。「待ち」の窓口ではなく、専属担当者及び第2世代交付金を活用したスタートアップコーディネーターによる「攻め」の窓口として令和7年4月～12月末までに以下の実績を得た。

コンタクト(名刺交換、壁打ち、メンタリング等):819件、マッチング(STATION Ai入居企業と市内企業または市役所各課の引き合わせ):213件

成約(契約、試験導入、実証実験、つながる実証推進協議会加入):10件、イベント実施:6件

令和6年以前への取組に加え、上記活動の中でコンタクト企業へのヒアリングを実施するとともに、スタートアップコーディネーターとの協議を重ね、豊田市から生まれるスタートアップの特徴、必要となる支援内容について以下のとおり再整理した。

豊田市におけるスタートアップの特徴としては、スタートアップの母数自体はそれほど多くないものの、大型の資金調達に成功している事例が5件あり、質が高いという特徴がある(少数精鋭)。加えて、スタートアップを立ち上げる人材は製造業関連の出身者が多いことや、ものづくり分野の事業を手掛けるスタートアップの顧客となる製造業者が市内に多く存在することから、ものづくり分野(製造業に密接な関係にある分野を含む)の事業を手掛けるスタートアップが大半である点も特徴である。そして、ものづくり分野のスタートアップの特徴としては、事業規模が大きい点や、試作→ブラッシュアップの繰り返しに時間がかかるため収益化までに長い年限がかかるという点がある。本市のスタートアップ支援は、これらを考慮した制度設計が必要となる。

以上を踏まえ、事業1、事業4、事業5について事業内容の見直しを実施。

【事業1】

プロポーザルで決定した受託事業者との調整を踏まえ、より詳細な積算を実施したことにより記載内容を変更しているが、セミナー、ワークショップを通じて新規事業への取り組み方を学び、伴走支援を希望する企業を選定するという基本の事業内容に変更はない。金額の増額は、R7年度の委託では当初8社の参加を想定していたところ、11社の申請があったため、R8年度は参加企業の増加を想定し、10社を想定したメンタリングとしているため増額申請となった。対応可能な範囲で支援企業を増やすことで、より多くの市内企業に対し支援を広げると共に、新規事業に取り組む意義、スタートアップとのオープンイノベーションの優位性を浸透させることが狙い。

【事業4】

②SENTANメーカーズラボ(新規)については、ものづくり創造拠点SENTANの活用が一定のスキルを持つ層に留まっており、イノベーション創出(KPI③)を加速させるためには、まずは施設登録団体を増やし、潜在的なプレイヤー層の裾野を広げることが不可欠であると判断した。ものづくり(ハード)系イノベーションを起こすためには、技術者が集う会社以外のサードプレイスが必要であり、その場所がSENTANにあることをまず知ってもらうことが狙い。こうした技術者たちの集まりから生まれるイノベーションの種が、ものづくり分野におけるスタートアップにつながった事例を踏まえ新規に申請するもの。

【事業5】

「はじめるとよた」の取組によるヒアリングから、想定していた補助事業と、スタートアップや市内企業のニーズに乖離を確認したことから、改めて補助事業の再構築を行った。

乖離していた点は以下のとおり。

・スタートアップ支援枠及びオープンイノベーション事業化枠の補助上限額の不足

事業化に取り組む事業者にとって、初期投資及び収益化までの期間の費用は多大な負担となり、ここを越えられないことがイノベーションを最も大きく阻害するポイント(死の谷)となる。逆に言えば、少額の補助では死の谷が越えられず、補助自体の意味をなさない可能性が高い。当初想定の上限額、想定採択数を見直し、少数を強力に後押しできる補助制度とする必要がある。このため、一般的に法人設立からプロトタイプ作成に1000万円程度の費用が必要であること、またスタートアップや市内企業へのヒアリング等から、想定していた上限額である1000万円を「ベース」として補助を実施する形に見直しを実施。

・実証補助の不足

オープンイノベーションを推進する上で、スタートアップの技術を取り込む市内企業側としては、無償の実証については良好な反応を示すものの、有償の実証には強い抵抗感がある。一方のスタートアップ側としては、無償実証を繰り返すだけでは事業として成り立たず、サービスのブラッシュアップにつなげられない実態があった。このため、有償の実証を後押しし、実証に向けての道筋をつけることで市内企業のオープンイノベーションを推進するとともに、サービスを提供す

事業延長期間	
--------	--

全事業期間における本年の位置付け		コミュニティ同士の交流促進によるエコシステムの構築と新たなプレイヤーの事業化に向けた取組促進															
事業開始時期			事業終了時期			予算計上時期①		予算種別①		予算計上時期②		予算種別②		予算計上時期③		予算種別③	
2027 年 4 月			2028 年 3 月			2026 年 10 月		当初		年 月				年 月			
交付対象事業経費			152,261千円														
交付対象事業におけるソフト事業経費										要素事業数		5		計		152,261千円	
新規事業創出支援事業「SPARK」										関連するKPI		①		24,761千円			
新たな収益の構築を目指す市内企業に向けて、社内新規事業開発やオープンイノベーションによる新規事業開発を支援する。新規事業開発に向けたキックオフセミナー、新規事業の作り方を学ぶ事業創出アカデミーを経て、実際に新規事業に取り組む企業を選定し、伴走支援を実施。 委託費 24,761千円 全体企画・運営 1,485千円 参加者募集支援 1,925千円 (キックオフイベント企画運営、とよたビジネスフェア出展、企業個別訪問等) 新規事業開発基礎研修 2,337千円 (全4回セミナー企画運営、講師謝礼等) オープンイノベーション機運醸成支援 578千円 (オープンイノベーションセミナー企画運営、講師謝礼等) ワークショップ開催 1,155千円 (技術起点の事業アイデア創出ワークショップ(2回)企画運営、講師謝礼等) 伴走支援プログラム 11,000千円 (参加企業選定支援、伴走型メンタリング(10社想定)、マッチング支援、合同ワークショップ、中間発表会企画運営等)[卒業生向け支援 3,300千円 (メンタリング(50回程度)、コミュニティイベント企画運営等) 成果報告 825千円 (成果報告会企画運営、ゲスト謝金等) 新規事業開発機運醸成支援 825千円 (経営者向けセミナー企画運営、広報用コンテンツ作成) 広報 1,331千円 (WEBサイト保守・運営、SNS広告、チラシ作成等)																	
スタートアップ支援コーディネーターによる相談支援及びマッチング実施										関連するKPI		①、②		5,000千円			
「とよたイノベーションセンター」において、「スタートアップ支援コーディネーター」を設置。 中小製造業での勤務経験や、自身でのスタートアップ起業、メンター経験もある人材を採用予定。 STATION Aiに在席し、STATION Ai及び近隣のインキュベーション施設等とSENTANを繋ぎ、スタートアップ等の相談支援、企業間のマッチングを実施する。 コーディネーター委託費 5,000千円																	
ビジネスコンテスト										関連するKPI		②		15,000千円			
スタートアップ等の新たなプレイヤーのビジネスモデルを発表し、優劣をつけるとともに、優勝者等にはインセンティブを与え、事業の飛躍及び販路の拡大を目指す。 委託費 15,000千円 ビジネスコンテストの企画・運営 10,000千円 審査員謝金、広告宣伝費 等 4,200千円 その他経費 800千円																	

SENTAN活性化事業	関連するKPI	②	
①SENTAN共創ラボ「Edge」(当初申請事業名:SENTAN定期イベント実施事業) 機運を高めるセミナーや、アイデアをブラッシュアップするピッチイベントなど、SENTANがHUBとなり、新たなプレイヤーが共に学び、交流・連携する場と認識される取組を継続的に実施する。参加者にVCや金融機関を積極的に呼び込み、資金調達等への支援を促進すると共に、コミュニティマネージャーとしての活動を強化する。 《委託費 16,200千円》 プログラム企画・運営業務費 10,000千円(イベント12回開催) (企画運営経費、セミナー講師謝礼等) コミュニティマネージャー活動費 300千円/月×12 3,600千円 情報発信費用 2,600千円 4 (SNS広告費用、HP作成・保守費用、チラシ作成費用等) ②メーカーズラボ(新規) ものづくりに関心のある新たなプレイヤーに対し、SENTANの設備を活用してアイデアをカタチにするものづくり体験等を提供することで、イノベーション創出の核となる人材を育成・発掘し、SENTAN登録団体を増やし、SENTANエコシステムを活性化することで、本市産業の持続的発展につなげる。 《委託費 3,300千円》 経費 プログラム企画・運営業務費 2,500千円 (キックオフイベント、ミートアップ(2回)、報告会等の実施等) 講師謝礼等 500千円 情報発信費用 300千円 (SNS広告費用、チラシ作成費用等)	ものづくりイノベーション創出補助金(当初申請事業名:スタートアップ・オープンイノベーション支援補助金) ①ものづくりイノベーション創出補助金 自動車産業が大変革期を迎える中、市内スタートアップによるものづくり分野における新規事業創出、市内企業とスタートアップによるオープンイノベーションの手法を活用した新規事業創出を支援することで、本市から社会に新たな価値を提供する事業(=イノベーション創出事業)を生み出し、新たな産業の創出を図る。 《補助事業費 68,000千円》 補助対象経費 A スタートアップ枠 / 専門家指導等謝礼金・外部委託費・原材料費等 B オープンイノベーション 実証枠 / 旅費・会議費・通信費・外部委託費等 C オープンイノベーション 事業化枠 / 旅費・会議費・通信費・外部委託費・製品見本等の制作費・販売促進費等 補助対象者 A スタートアップ枠 / 市内スタートアップ B オープンイノベーション 実証枠 / 市内企業者 C オープンイノベーション 事業化枠 / 市内企業者 補助率 A スタートアップ枠 / 補助対象経費の2/3 B オープンイノベーション 実証枠 / 補助対象経費の4/5 C オープンイノベーション 事業化枠 / 補助対象経費の2/3 補助上限 A スタートアップ枠 / 1,000万円 B オープンイノベーション 実証枠 / 200万円 C オープンイノベーション 事業化枠 / 1,000万円 補助件数 A スタートアップ枠 / 3件/年 B オープンイノベーション 実証枠 / 4件/年 C オープンイノベーション 事業化枠 / 3件/年 ②ものづくりイノベーション創造補助金運営支援業務委託 単なる補助金制度の運営ではなく、補助金申請事業者の申請内容、人的資質の審査を行い、適正・実現可能性を精査し、採択後の補助対象事業の達成確度を高めるための伴走支援を提供するとともに、補助金以外の資金調達支援、マーケット展開支援、他制度の紹介、ネットワーク構築支援なども含め、事業の実装・継続性確保を支援することで、事業の成功を目的とした支援インフラを構築し、地域産業・技術基盤強化、雇用創出、地域経済波及を目指す。 《委託事業費 20,000千円》 経費 事業企画・事務局運営 10,000千円 情報発信費 1,500千円 (HP作成・保守、SNS広告等) 審査会開催 500千円 (審査員謝礼等) メンタリング費 8,000千円 (VC、メンターによるメンタリング(10社×3回×8か月間 240回程度想定))	①	19,500千円 88,000千円
交付対象事業における施設整備・事業設備・備品経費	要素事業数	計	0千円

経費内訳変更の理由(事業の見直しを踏まえて、変更する理由を具体的に記載)

【事業1】
プロポーザルで決定した受託事業者との調整により、より詳細な積算を実施したことにより記載内容を変更しているが、セミナー、ワークショップを通じて新規事業への取り組み方を学び、伴走支援を希望する企業を選定するという基本の事業内容に変更はない。金額の増額は、R7年度の委託では当初8社の参加を想定していたところ、11社の申請があったため、R8年度は参加企業の増加を想定し、10社を想定したメンタリングとしているため、増額申請するものです。

【事業4】
②SENTANメーカーズラボ(新規)については、ものづくり創造拠点SENTANの活用は一定のスキルを持つ層に留まっており。イノベーション創出(KPI③)を加速させるためには、まずは施設登録団体を増やし、潜在的なプレイヤー層の裾野を広げることが不可欠であると判断した。ものづくり(ハード)系イノベーションを起こすためには、技術者が集う会社以外のサードプレイスが必須であり、その場所がSENTANにあることをまず知ってもらうことが狙い。

【事業5】
予定していたスタートアップ支援及びOI事業化枠の補助枠に加え、「OI実証枠」を新設するとともに、補助上限額および補助率を拡充する。具体的には、OI実証枠は随時の書面審査による採択とし、市内企業がスタートアップのサービスを試験導入するハードルを下げることにより、新事業展開(KPI②)やイノベーション創出(KPI③)を推進するとともに、次年度以降のOI事業化枠補助金に申請する効果も期待している。併せて、事業化プロセスの各フェーズ(戦略策定、知財管理、販路開拓)に精通した専門アドバイザーによる「ハンズオン型伴走支援」を標準実装する体制へと強化する。これにより、補助事業申請企業数の確保と採択企業の事業化成功率を底上げし、新事業展開(KPI②)とイノベーション創出(KPI③)を確実に促すとともに、付加価値率(KPI①)の向上確度を高める。